

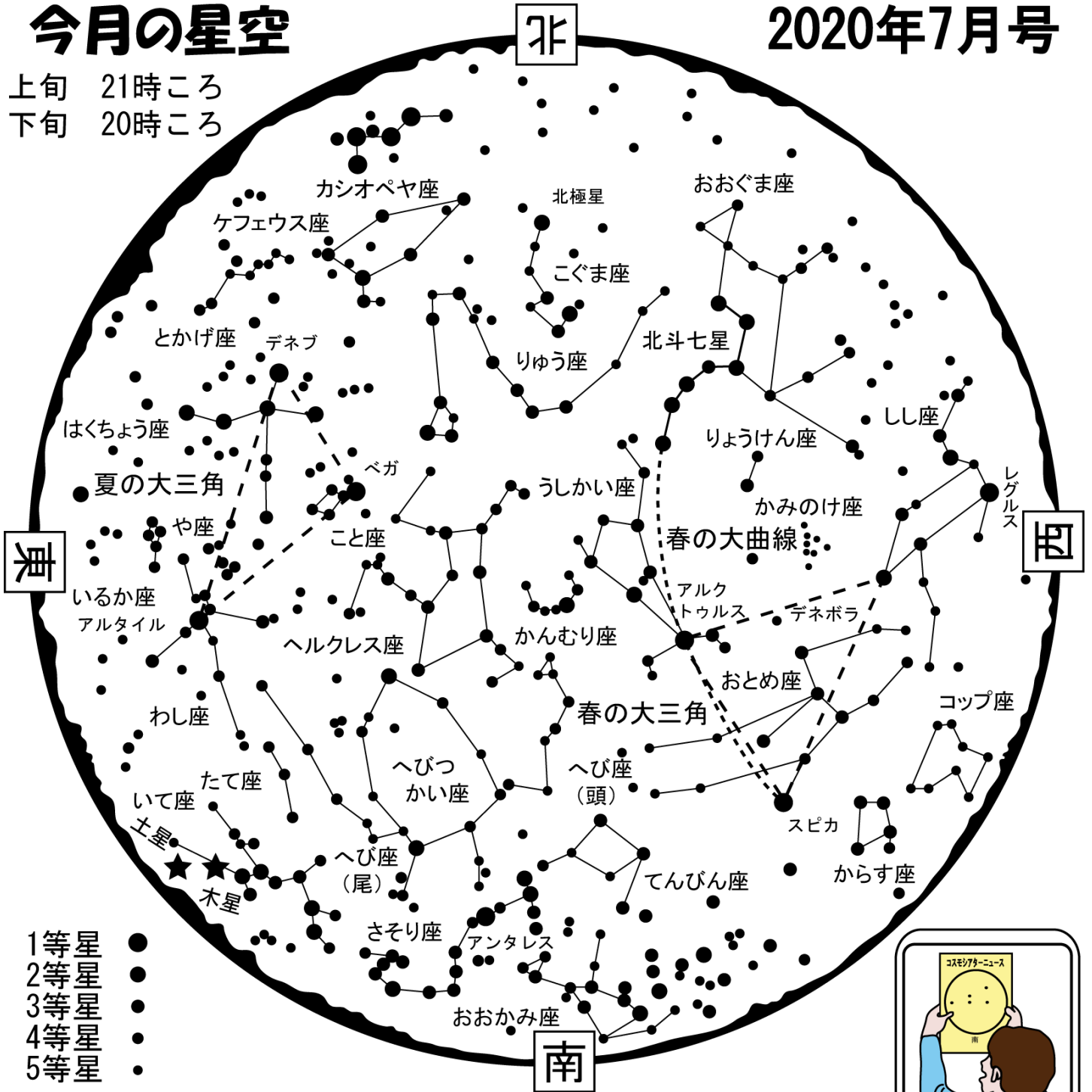
コスモシアターニュース

今月の星空

7

2020年7月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ

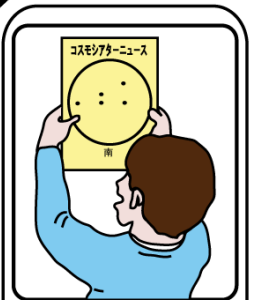


今月の惑星の動き

水星：中旬以降明け方、東の低い空に見えます。明るさは0~1等星です。
金星：明け方、東の空に見えます。明るさは-4.5等星です。
火星：真夜中すぎ、東の空に見えます。明るさは0~1等星です。
木星：日の入りすぎ、南東の空に見えます。明るさは-3等星です。
土星：日の入りすぎ、南東の空に見えます。明るさは0等星です。

今月の月の満ち欠け

満月：5日(日) 下弦：13日(月) 新月：21日(火) 上弦：27日(月)



自分の向いている方向を下にして、見てください

5日(日)、南東の空で、月と木星、土星が並んで輝く

5日(日)の20時ころ、南東の空からほぼ満月の明るい月が昇ります。そして、30分ほど月に遅れて昇ってくるのが木星です。さらに、木星を追いかけて昇ってくるのが土星です。木星は大変明るく輝いているので、月の輝きにも負けません。しかし、土星は月の明るさに負けそうなので、注意して探してみてください。なお、翌日の6日(月)は、木星、土星、月の順番に昇り、並びも月の場所が変わります。見やすいのは、高さが高くなる21時以降です。

11日(土)、真夜中、東の空で、月と火星が並んで輝く

11日(土)深夜、23時半ころ、東の空からほぼ半分欠けた月が昇ります。この月の左側を見ると、オレンジ色の明るい星が見えます。この星が火星になります。月が昇ったころは、高さが低く見つけにくい状態です。見やすいのは、12日(日)の午前1時以降になるでしょう。

14日(火)、木星が衝



木星が14日(火)に衝となり、観望の好機となります。衝は、地球より外側を回る惑星が、太陽と反対側に来る時を言います。この時は、日の入りころ昇り、一晩中夜空に輝きます。そして、地球から最も近くなり、観測しやすくなるのです。

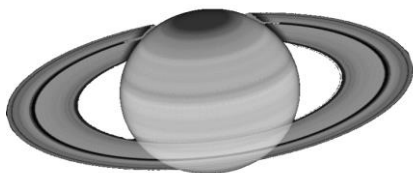
今月、木星の明るさは3等星、1等星の40倍くらい明るく輝きます。夜空でいちばん明るく、すぐに見つかるでしょう。木星は、肉眼で見ると普通の明るい星にしか見えません。しかし、天体望遠鏡を使うとしま模様が見えてきます。また、目玉のような大赤斑(だいせきはん)と呼ばれる、模様も見えることもあります。

なお、コスモシアターで実施する7月から10月ころまでの星空観望会で見るすることができます。ご覧になりたい方は、ぜひご参加ください。

17日(金)、明け方、東の空で、月と金星が並んで輝く

17日(金)の明け方前の午前2時半ころ、細い月が東の空に昇ってきます。そして、この月に少し遅れて、左下に昇ってくるのが、明けの明星・金星です。ただし、午前3時ころまでは高さが低く、見やすくなるのは、午前4時ころになります。

21日(火)土星が衝



土星は、地球からリングが見える惑星として知られています。この土星が、21日(火)に衝(しょう)となり、観測の好機を迎えます。

土星は肉眼で普通の星にしか見えませんが、天体望遠鏡を使うと、リングが見えてきます。左の図は、天体望遠鏡で見た衝のころの土星の姿です。今年は、土星のリングの傾きが少し大きく、リングの詳しい観察ができます。コスモシアターの観望会の7月から10月ころまでのころの観望会で、天体望遠鏡で実際に土星を見ることができます。

興味のある方はぜひご参加ください。

天の川を見よう

7月~8月は天の川が最も見やすい時期です。天の川は、雲のようにぼんやりし、街の明かりがあると見えなくなってしまう。また、月が輝いている時も見えません。今月は、21日が新月ですので、この前後1週間程度が見ごろとなります。また、見やすい時間は、21時以降で、真夜中ころまで続きます。

人間の目は暗い所に行くと、すぐには暗闇に慣れません。ですから、明るい部屋の中から急に外に出ても、天の川が見えないのです。最低でも5分くらいは、夜空を眺めて下さい。すると見えなかった天の川も見えてきます。

右の図は、7月上旬の22時ころの様子です。雲のようにぼんやりとしたものが天の川です。実際の天の川は、南の空にある部分が一番明るく見えます。ちょうどさそり座のしっぽ方向です。そして、天の川をさかのぼって頭上を見ると、夏の大三角があります。空の暗い郊外で観察すると、カシオペア座まで天の川が続いているのが分かるでしょう。

